

～令和7年度 ひょうご環境保全活動助成金のご案内～

ひょうご環境保全連絡会では、環境保全活動の一層の拡充を図るため、環境の保全と創造に関する活動に対し、その活動経費の一部を助成します。

助成を希望される団体は、所定の申請書を提出してください（申請書は事務局で配付しています。また、「ひょうご環境保全連絡会」ホームページ（<https://heca.jp>）からもダウンロードできます）。

● 助成の対象となる活動

令和7年4月1日～令和8年2月15日の間に実施する活動であって、以下のいずれかに該当するもの

- (1) 環境の保全と創造に関する思想の普及及び意識の高揚のための活動
- (2) 環境の保全と創造に関する情報の収集及び交換のための活動
- (3) 環境の保全と創造に関する調査研究活動

<本助成により実施された事業（一例です）>



普及啓発動画の作成



座学講座の開催



植木剪定講義の開催

● 助成の対象となる団体

環境保全活動に取り組んでいる団体（取組もうとする団体を含む）であって、以下のすべてを充たすもの

- (1) 県内に活動の本拠を置き、かつ、県内で活動を行う団体
- (2) 会則または規約等を有しており、団体としての意思決定により事業執行ができ、確実な経理処理ができること。

※ただし、上記のすべてを充たす場合でも、以下のいずれかに該当している場合は助成対象となりませんので、ご了承ください。

- ・公共団体又は公共団体が設立した団体による活動
- ・営利活動、政治活動又は宗教活動を主たる目的とする団体による活動
- ・他の団体への資金の補助、助成等を内容とする活動

● 助成金の対象となる経費（※詳細は助成金交付申請書の別表参照）

- (1) 講師及び指導者に対する謝礼及び旅費
- (2) 活動のための印刷費及び消耗品等の購入費
- (3) 活動のために使用する会場、車両又は備品等の借上料
- (4) 活動のための保険料及び郵送料
- (5) その他活動に必要と認められる経費

● 助成回数

原則として5回まで助成を受けることが可能です。ただし、毎回申請の上、選考を受ける必要があります（前身団体である兵庫県大気環境保全連絡協議会及び兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会から助成を受けた実績がある団体については、当該団体からの助成を含めて5回までとします。ただし、過去に5回以上助成を受けた団体においても、今年度応募の団体数等により選考対象とする場合があります）。

● 申請手続き

助成を受けようとする団体は、当案内をよくご確認のうえ、ひょうご環境保全連絡会事務局（兵庫県水大気課内）宛てに書類一式をメールで提出してください。

● 申請の締め切り

令和7年6月6日（金）（必着）

こちらからの返信があって申請完了とします。6月10日（火）までに返信がない場合は受信できていない場合がございますので、下記連絡先にお問い合わせください。

● 助成金の交付限度額

助成金は、1団体につき10万円を限度として交付します。

● 助成金交付活動の決定

提出された申請書に基づき、活動目的の妥当性、活動の実施可能性、活動の有効性、活動の拡充可能性等を選考委員会において評価し、予算の範囲内で助成金を交付する活動を決定します。

選考基準は別添のとおりとなります。

● 活動実績報告書の提出

交付が決定された団体は、**助成活動終了後30日以内又は令和8年2月27日（金）のいずれか先に到来する日まで**に、活動実績報告書の提出が必要です（報告方法等は、交付決定時にご案内します）。

● 助成金交付の時期

原則、助成金を交付すると決定された活動が終了し、活動実績報告書が提出された後に交付します。

● 申請先・連絡先

ひょうご環境保全連絡会事務局

E-mail：mizutaiki_07@pref.hyogo.lg.jp

TEL：078-341-7711（内線 3388）

ホームページ：<https://heca.jp>

普及啓発活動や環境保全活動等の
取組を行っておられる団体の
皆さま、奮ってご応募ください！



兵庫県マスコット
はばタン

ひょうご環境保全連絡会とは

ひょうご環境保全連絡会は、会員相互の協力によって生活環境の保全に加え、温暖化防止、生物多様性及び資源循環等に関する思想の普及及び意識の高揚に努め、環境の保全と創造を総合的かつ効果的に推進することにより、“豊かで美しいひょうご”の実現を目指すことを目的に、環境保全に関する様々な事業を行っています。

現在、事業者、漁業団体、衛生団体、環境調査機関、県・市町など約 470 の団体・組織が加入し、ひょうごの環境保全・創造に向けた取組を行っています。

● 選考基準

妥当性	本会の助成方針に合致した活動内容であるか
確実性	組織体制が確立されており、活動の確実な実施が見込まれるか
具体性	参加者数等の成果目標が具体的であるか
参画性	活動に役立つ協力者(地域住民、専門家等)の参加及び情報を得られるか
先導性	他の地域での活動に参考となり、また、その拡充につながるか
独創性	活動の実施にあたり創意工夫が見られるか
継続性	助成が終了しても助成対象とした活動の継続が見込まれるか
将来性	活動内容が斬新で、将来の活動に対する発展が期待できるか